

基本情報						
教科・科目		数学・数学C(理系標準)		・授業で使用するもの テキスト、補助プリント		
担当者		佐野				
評価割合(試験:試験外)		試験:6 試験外:4		試験外の40%は、小テストやレポート課題などで判断する。 数学は自らの考えを書くことにより表現する学問であるので、丁寧な解答の記述など、考えの足跡を残すことを積極的に評価する。		
年間を通じて教科で培う力		鍛錬(知識及び技能)		具体的な事柄や事象についてモデル化する、一般化する、批判的に捉えるなど、事象を数学的に解釈し、数学的に表現、処理する力を培う。また、多様な事象を数学的に表現・処理するために必要な式の計算の仕組みや関数、図形の性質等についての理解を深める。		
		理知(思考力・判断力・表現力等)		直観や論理的な思考をもとに、事象を定義化したり定理を導いたりしながら課題の解決を図るとともに、多様な考え方について論理的整合性について議論し、その正誤について知的なコミュニケーションを通して受け入れることができる。		
		探究・叡智(主体的に学習に取り組む態度)		社会での数学の役割に気づく、数学的な思考のよさを実感することを通して、数学の学習の意義を高めながら、自身で課題設定を行い、主体的に学習する態度を養う。		
学習情報						
月	回	単元名	単元目標(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
45	12	2次曲線	・放物線、楕円、双曲線の定義を理解し、これらを表す方程式や焦点の座標などを求めることができる。 ・与えられた方程式がどの2次曲線を表すかを判断して、グラフをかいたり平行移動できる。	・グラフ表示ソフトを用いて、2次式による方程式が表すグラフが様々な形を取ることを観察する。 ・放物線、楕円、双曲線の定義を学習し、問題を通して方程式とグラフの焦点の対応関係を理解する。 ・グラフ表示ソフトを用いて方程式の係数を変化させることで、目的とする2次曲線を作る。同時に、円錐との関係も学ぶ。	・講義 ・演習	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト ・定期試験
		媒介変数表示と極座標	・極方程式で表された図形を求めて、グラフを図示することができる。 ・直交座標では考えにくい曲線の軌跡を媒介変数表示することで求めることができる。	・ベクトルを使わないで平面上の点の位置を表す方法をできるだけ多く考えて分類する。 ・斜方投射などの時間経過と共に状況が変化する現実の問題を扱い、媒介変数表示で表して解決することで最適な行動を発見する中で、媒介変数表示を用いるメリットとデメリットを学ぶ。	・講義 ・演習	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト ・定期試験
6	定期試験① 令和8年 6月3日―6月5日					
6	12	入試問題演習 (数学Ⅲ・C)	基礎の確認と計算の正確性の向上 □ 数学Ⅲ・Cの基本公式・定理を正確に使いこなせるようになる □ 典型問題の解法パターンを把握し、再現できる □ 計算のミスや理解不足を自覚し、基礎の抜けを補える	□ ベクトル □ 微分・積分 □ 複素数平面 □ 2次曲線 など	・講義 ・問題演習(個人、グループ、課題添削)	・授業内課題への取組 ・グループでの取組 ・小テスト ・定期試験
7	定期試験② 令和8年 7月15日―7月17日					
8	44	入試問題演習 (数学Ⅲ・C)	融合問題、特に図形的理解の強化 □ 微分や積分、数列、ベクトルを組み合わせた融合問題に自力でアプローチできる □ 複素数平面を使った図形的回転やn乗根の配置を数式・図で説明できる □ 記述式の問題を見て、解法の方針に気づき、アプローチできる	□ 関数のグラフ・最大最小・パラメータ表示 □ 図形の移動について □ 記述式問題へのアプローチ方法の演習	・講義 ・問題演習(個人、グループ、課題添削)	